

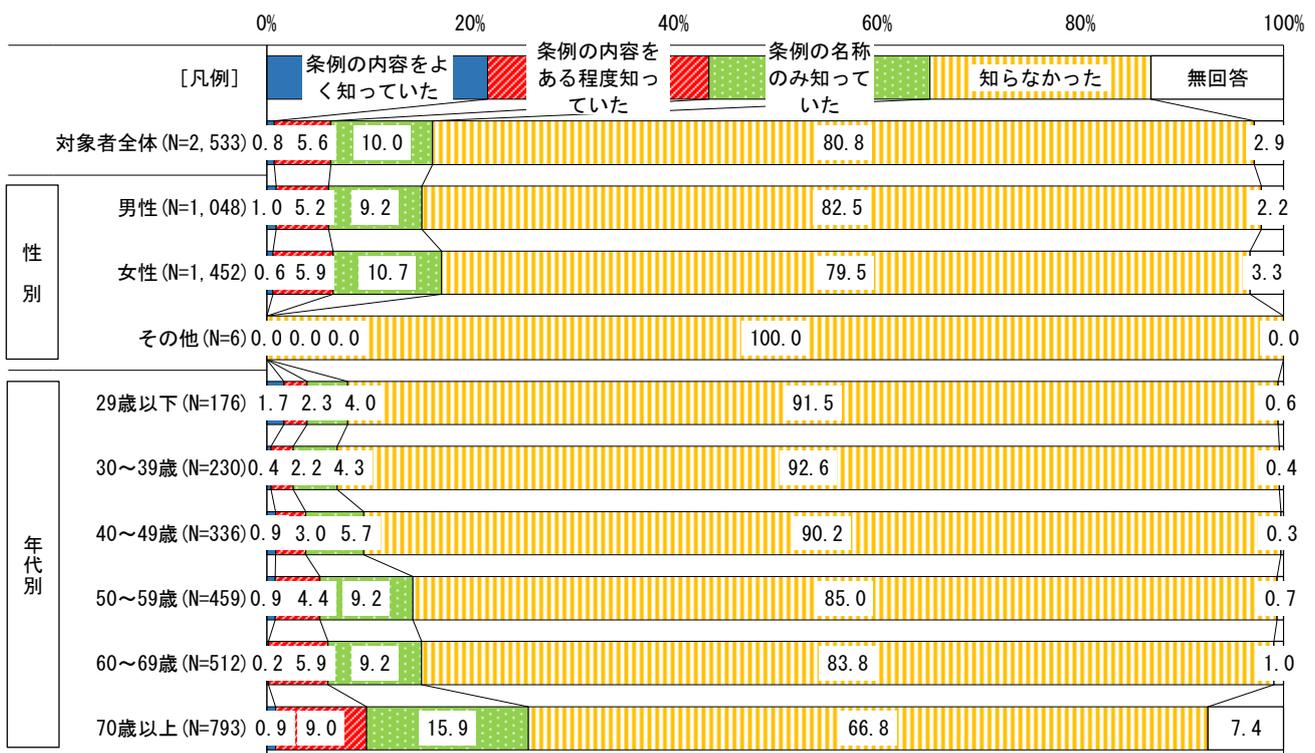
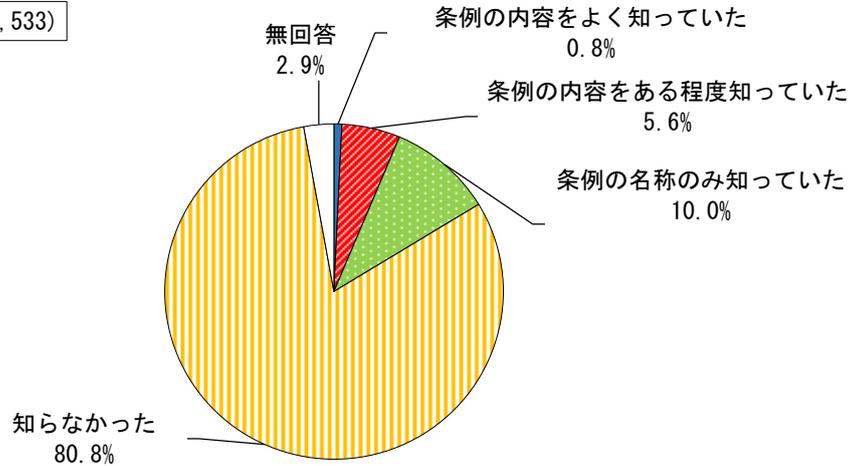
### (3) 障がい者コミュニケーション条例等について

#### ◇ 障がい者コミュニケーション条例の認知度

問14 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」人が80.8%

対象者全体 (N=2,533)



【全体】障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」が80.8%、「条例の名称のみ知っていた」が10.0%、「条例の内容をある程度知っていた」が5.6%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

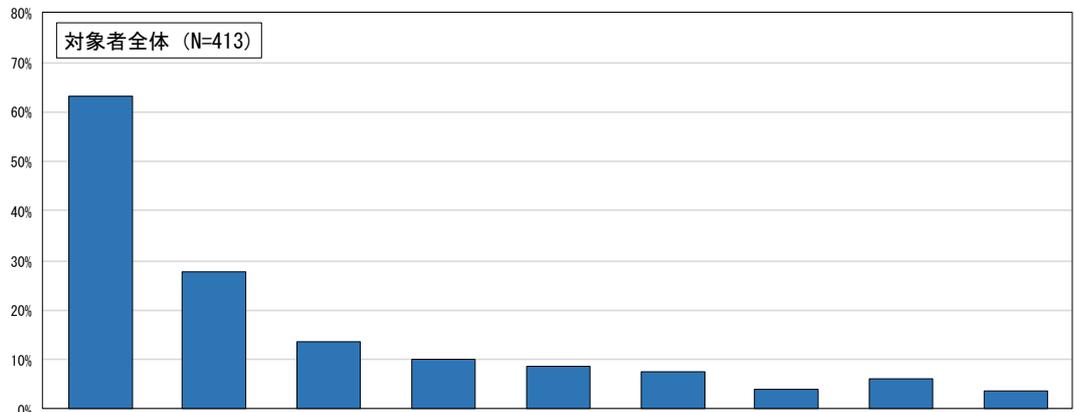
【年代別】「知らなかった」が30歳代(92.6%)で最も高く、最も低い70歳以上(66.8%)と比べると、25.8ポイントの差となっている。

◇障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけ

「問14で「1 条例の内容をよく知っていた」「2 条例の内容をある程度知っていた」「3 条例の名称のみ知っていた」と答えた方にお聞きします。」

問14-1 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を何で知りましたか。あてはまるものいくつか○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が63.2%



対象者数		広報さっぽろ	新聞・テレビなどの報道	家族、知人	ポスター・チラシ・パンフ	市役所や区役所の窓口	ホームページ	その他	覚えていない	無回答
(%)										
対象者全体		413	63.2	27.6	13.6	10.2	8.7	7.5	3.9	6.1
性別	男性	160	66.9	26.9	9.4	7.5	8.8	10.6	3.8	5.0
	女性	250	61.2	28.0	16.4	12.0	8.8	5.6	4.0	6.8
	その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	14	21.4	28.6	14.3	7.1	7.1	-	14.3	14.3
	30～39歳	16	43.8	25.0	18.8	25.0	12.5	12.5	-	-
	40～49歳	32	43.8	18.8	9.4	6.3	18.8	3.1	12.5	18.8
	50～59歳	66	48.5	28.8	13.6	4.5	3.0	12.1	7.6	10.6
	60～69歳	78	60.3	16.7	12.8	19.2	12.8	11.5	3.8	5.1
	70歳以上	204	77.0	32.8	14.2	8.3	7.4	5.4	-	2.9

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が63.2%、「新聞・テレビなどの報道」が27.6%、「家族、知人」が13.6%となっている。

【性別】「広報さっぽろ」、「ホームページ」は、男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。また、「家族、知人」は、女性が16.4%と、男性の9.4%より7.0ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下では「新聞・テレビなどの報道」が、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「広報さっぽろ」が最も高くなっている。

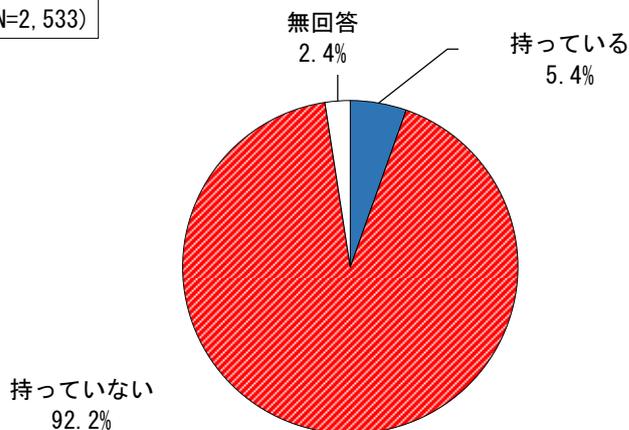
◇障がい者手帳の保有状況

《皆さまにお聞きします。》

**問15** あなたは、障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）を持っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」人が92.2%

対象者全体 (N=2,533)



【全体】障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」が92.2%、「持っている」が5.4%となっている。

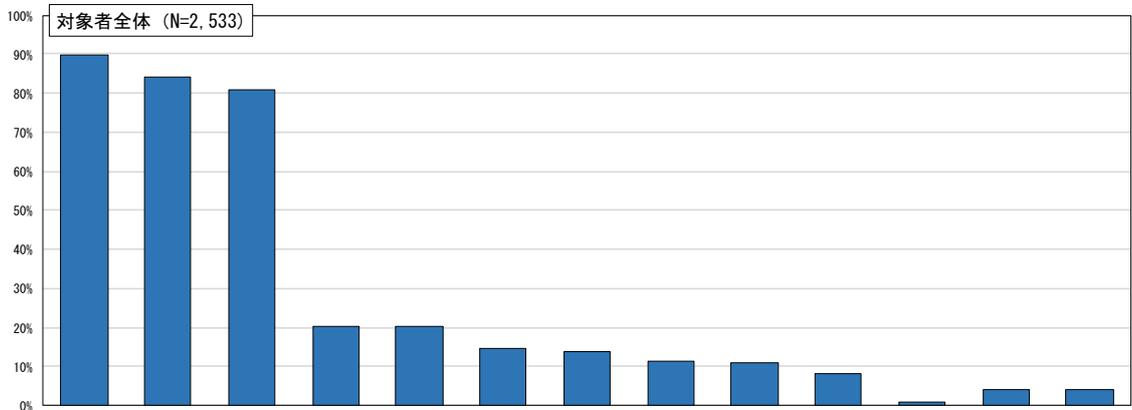
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「持っている」が70歳以上（7.4%）で最も多く、次いで60歳代（5.9%）、29歳以下（5.1%）となっている。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているもの

問16 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(ご自身でその手段の表現ができなくても構いません。知っているものに○をつけてください。)

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が89.7%



対象者数	手話	点字	筆談	音訳	手のひら書き	意思伝達装置	口文字	指文字	要約筆記	触手話	その他	特になし	無回答	
(%)														
対象者全体	2,533	89.7	84.1	81.0	20.4	20.3	14.7	13.7	11.2	10.9	8.0	0.9	4.0	3.9
性別														
男性	1,048	88.5	81.7	75.6	15.5	16.2	11.7	10.6	9.5	11.4	6.5	0.9	5.2	4.1
女性	1,452	90.8	86.3	85.3	24.0	23.2	17.2	15.9	12.4	10.7	9.2	1.0	3.0	3.6
その他	6	100.0	100.0	100.0	33.3	66.7	-	33.3	50.0	16.7	16.7	-	-	-
年代別														
29歳以下	176	96.0	91.5	84.1	22.7	36.9	18.2	24.4	25.0	9.1	11.4	-	1.1	1.1
30～39歳	230	95.2	93.9	92.2	27.8	29.1	21.7	21.3	17.8	16.5	11.3	1.3	0.9	1.7
40～49歳	336	94.6	92.3	90.5	20.5	27.7	16.7	12.8	8.9	11.3	7.1	3.0	1.8	1.8
50～59歳	459	96.7	93.5	89.3	26.6	20.3	17.0	14.2	13.7	11.3	8.7	0.7	1.7	0.9
60～69歳	512	92.6	89.5	82.0	19.9	16.8	15.8	11.7	8.2	10.2	8.8	0.6	4.5	1.8
70歳以上	793	79.2	68.2	68.5	14.8	13.6	9.6	10.6	7.9	10.1	6.1	0.6	7.1	8.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が89.7%、「点字」が84.1%、「筆談」が81.0%となっている。

【性別】「筆談」、「音訳」、「手のひら書き」、「意思伝達装置」、「口文字」は、女性が男性より5.3ポイント以上高くなっている。

【年代別】「手のひら書き」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

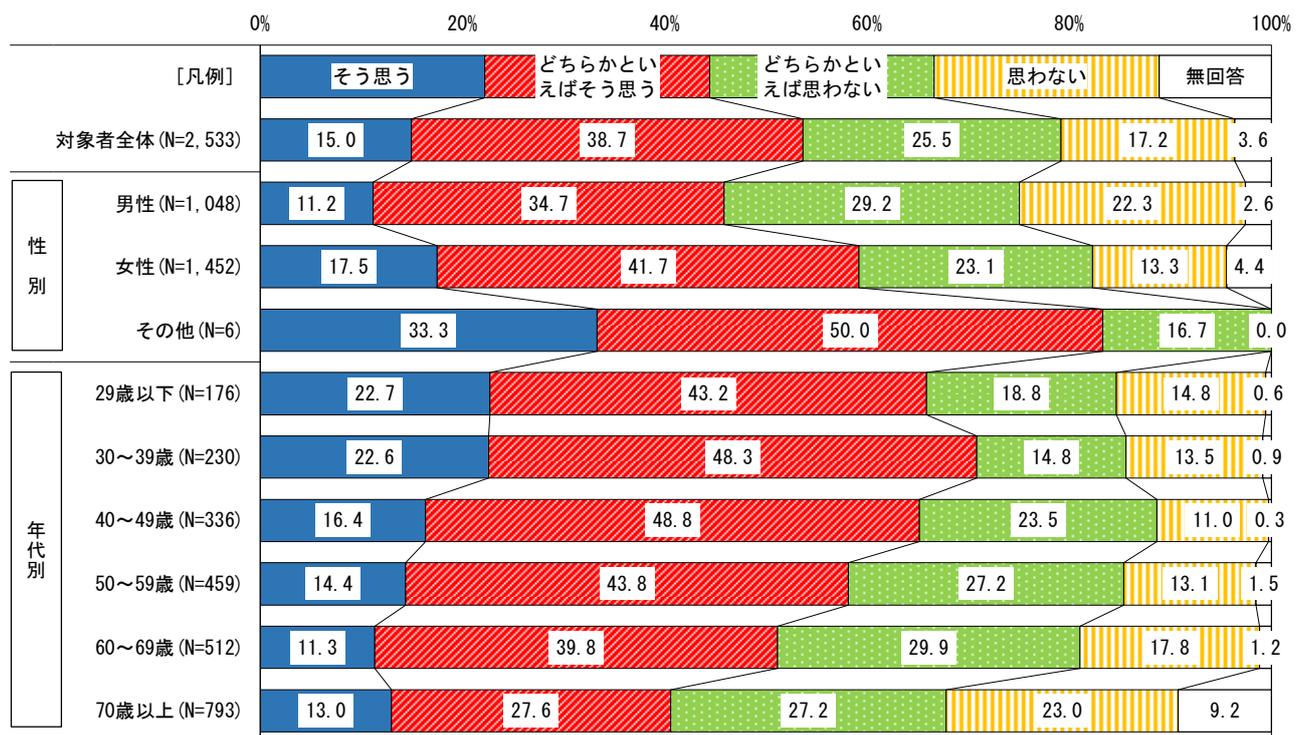
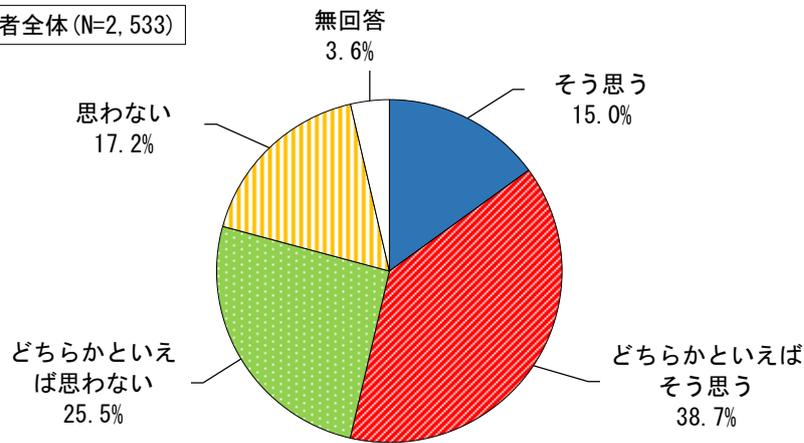
◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うか

問17 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、あなたは学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、“そう思う”が53.7%

“そう思う” = (「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」)

対象者全体 (N=2,533)



【全体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、「そう思う」が15.0%、「どちらかといえばそう思う」が38.7%、合わせると53.7%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が25.5%、「思わない」が17.2%、合わせると42.7%となっている。

【性別】「どちらかといえば思わない」、「思わない」は、男性が女性より6.1ポイント以上高くなっている。また、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」は、女性が男性より6.3ポイント以上高くなっている。

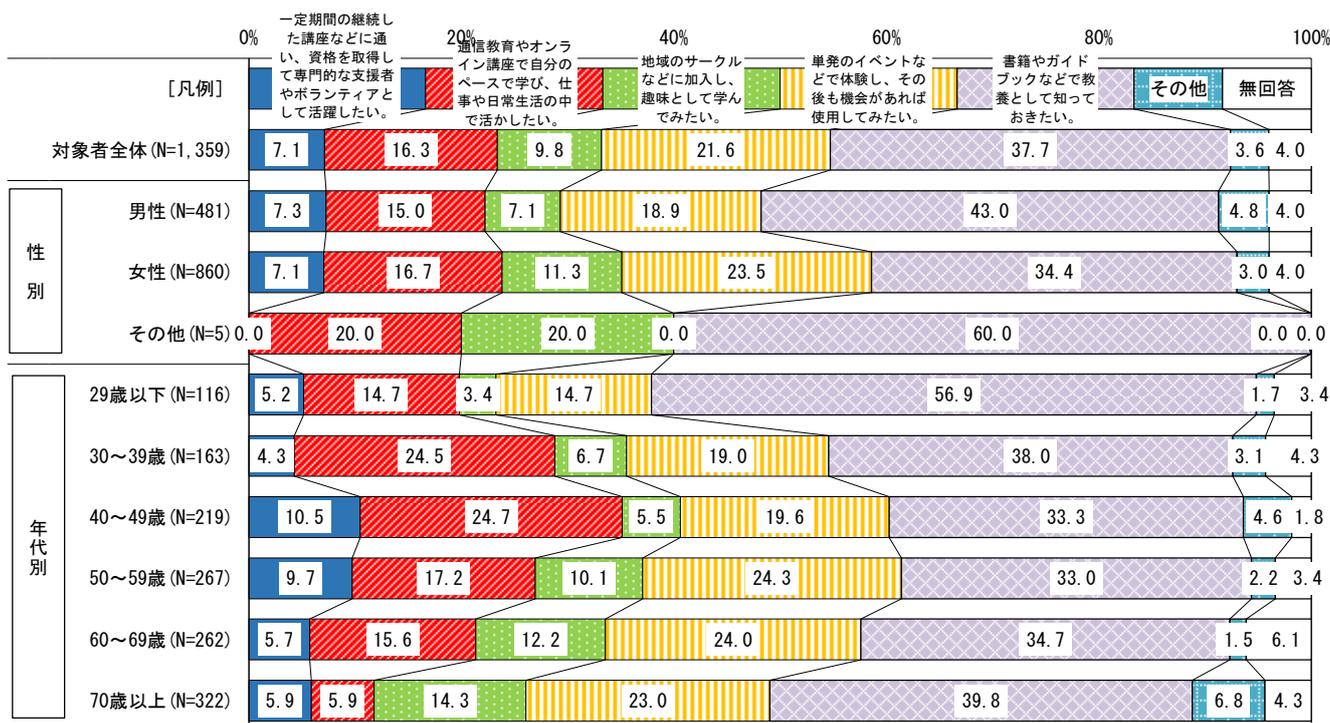
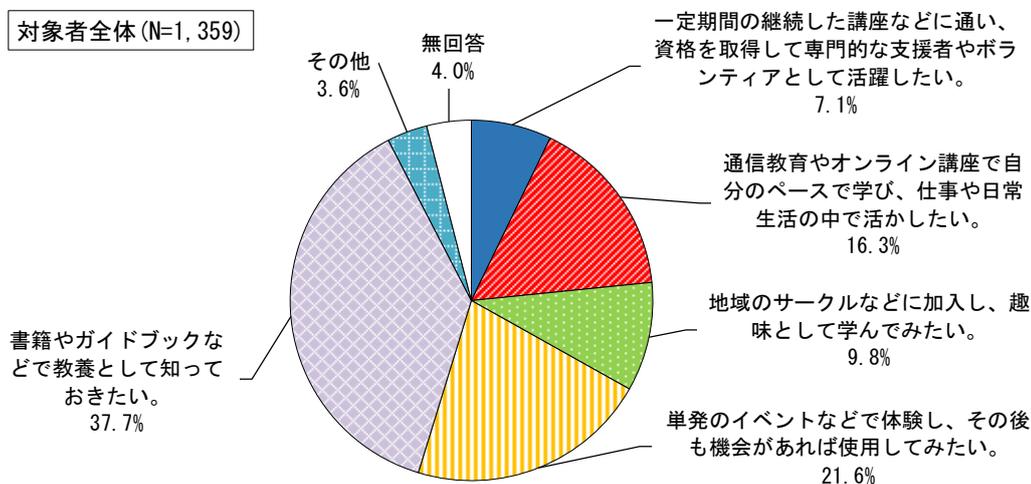
【年代別】「そう思う」が29歳以下(22.7%)で最も高く、次いで30歳代(22.6%)、40歳代(16.4%)となっている。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うか  
 ≪問17で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。≫

**問17-1** あなたは、障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」と回答した人が37.7%

対象者全体 (N=1,359)



【全体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が37.7%、「単発のイベントなどで体験し、その後も機会があれば使用してみたい。」が21.6%、「通信教育やオンライン講座で自分のペースで学び、仕事や日常生活の中で活かしたい。」が16.3%となっている。

【性別】「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」は、男性が43.0%と、女性の34.4%より8.6ポイント高くなっている。

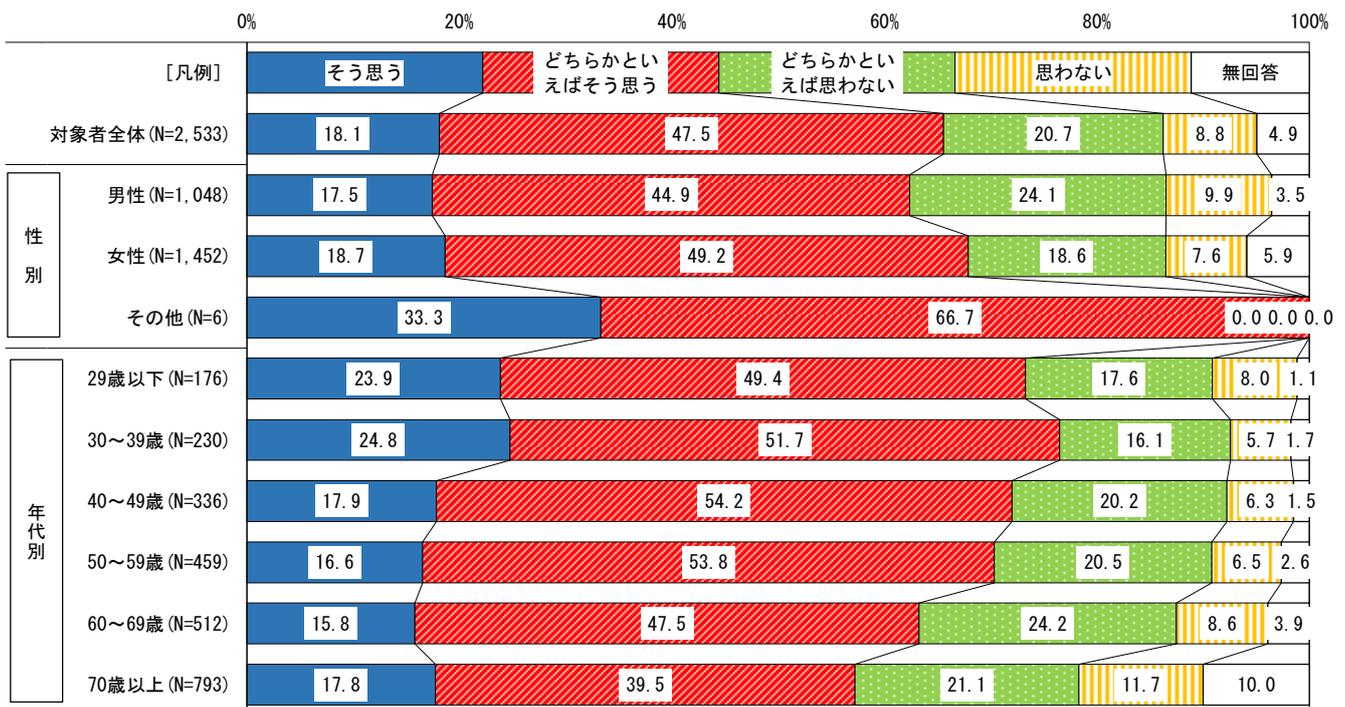
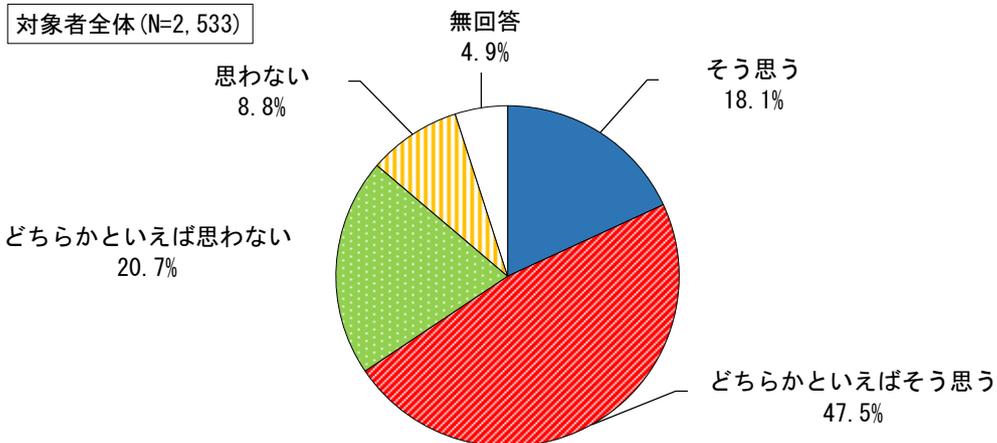
【年代別】「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が29歳以下(56.9%)で最も高く、最も低い50歳代(33.0%)と比べると23.9ポイントの差となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、何かに取り組みたいと思うか  
 ≪皆さまにお聞きします。≫

**問18** あなたはコミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、市民として何かに取り組みたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、“**そう思う**”が**65.6%**

“そう思う” = (「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」)



【全体】 コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、「そう思う」が18.1%、「どちらかといえばそう思う」が47.5%、合わせると65.6%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が20.7%、「思わない」が8.8%、合わせると29.5%となっている。

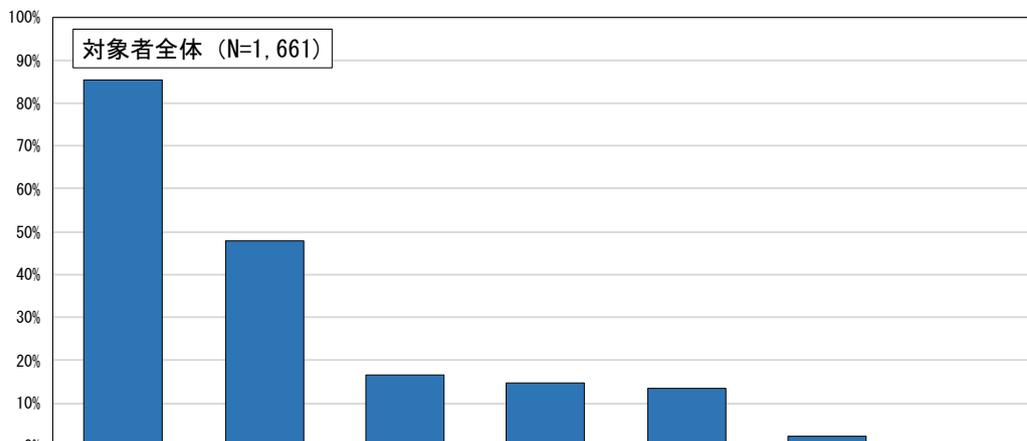
【性別】 「どちらかといえば思わない」は、男性で24.1%と、女性の18.6%より5.5ポイント高くなっている。

【年代別】 「そう思う」が30歳代(24.8%)で最も高く、次いで29歳以下(23.9%)、40歳代(17.9%)となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいこと  
 ≪問18で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。≫

**問18-1** あなたは、コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、市民として具体的にどのようなことに取り組みたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」と回答した人が85.3%



	対象者数	取り組みたいこと (%)							
		日常生活で困っている方がいたら助ける	メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があれば気を配る	障がいのある方が行う行事、催し物に参加する	ボランティア活動へ参加する	講座に参加するなど、障がいのある方のコミュニケーション手段を学習し、実践する	その他	無回答	
対象者全体	1,661	85.3	47.8	16.7	14.9	13.4	2.3	0.5	
性別	男性	654	81.5	47.1	15.1	13.5	12.8	2.6	0.5
	女性	986	87.9	48.7	17.6	15.7	13.7	2.1	0.5
	その他	6	83.3	50.0	33.3	50.0	33.3	-	-
	その他	6	83.3	50.0	33.3	50.0	33.3	-	-
年代別	29歳以下	129	85.3	42.6	14.7	19.4	16.3	2.3	0.8
	30～39歳	176	89.8	47.2	23.3	13.6	13.6	3.4	-
	40～49歳	242	86.8	48.8	16.9	13.6	15.7	2.5	-
	50～59歳	323	85.1	47.1	17.0	15.8	15.8	1.5	-
	60～69歳	324	85.8	50.6	14.2	13.3	13.0	1.5	0.3
	70歳以上	454	83.0	48.2	16.1	15.4	9.9	2.9	1.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」が85.3%、「メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があれば気を配る」が47.8%、「障がいのある方が行う行事、催し物に参加する」が16.7%となっている。

【性別】「日常生活で困っている方がいたら助ける」は、女性が87.9%と、男性の81.5%より6.4ポイント高くなっている。

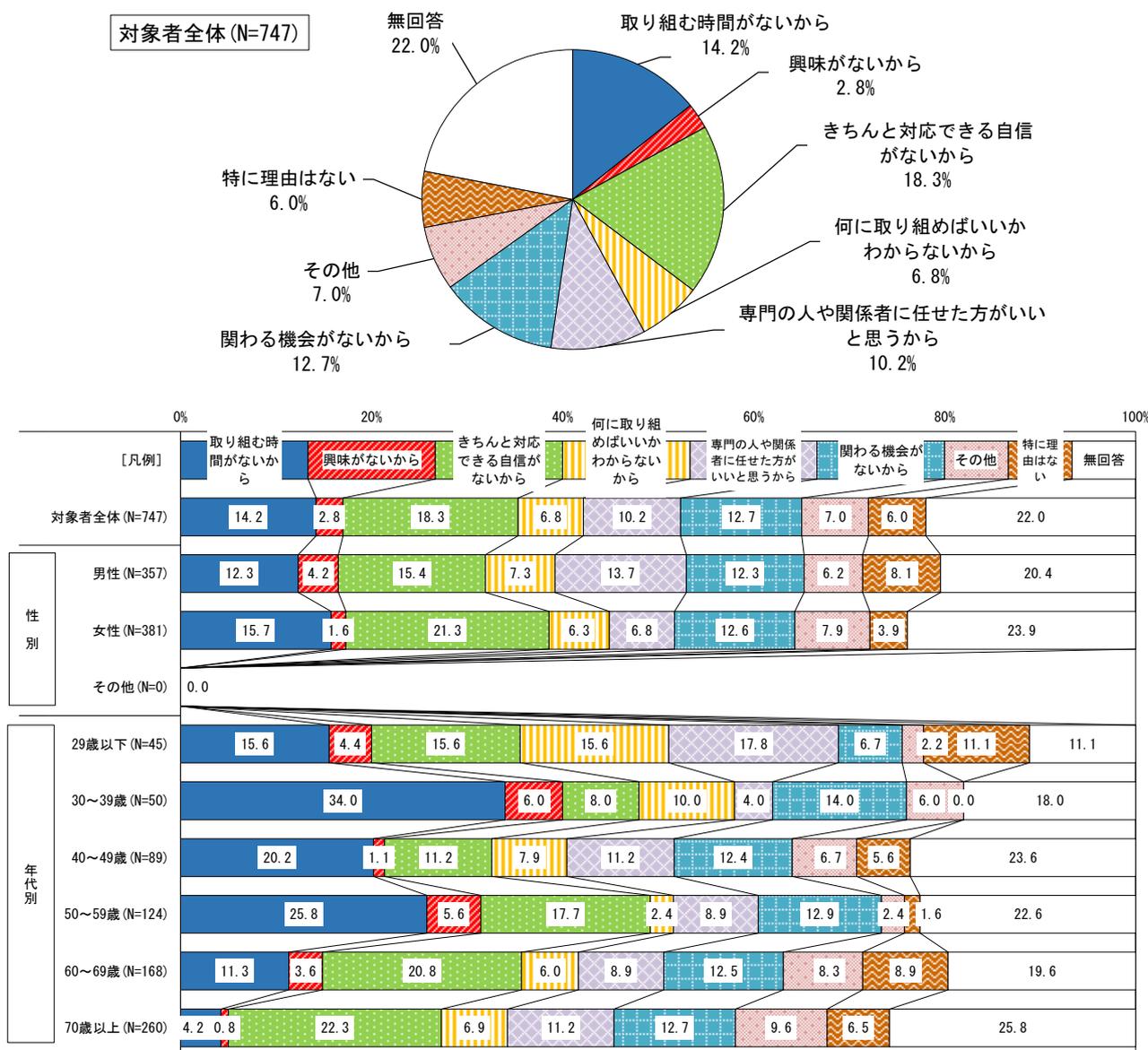
【年代別】「日常生活で困っている方がいたら助ける」が30歳代(89.8%)で最も高く、次いで40歳代(86.8%)、60歳代(85.8%)となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由

《問18で「3 どちらかといえば思わない」または「4 思わない」と答えた方にお聞きします。》

**問18-2** あなたが、コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、市民として何か取り組みたいと思わない理由は何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由は、「きちんと対応できる自信がないから」と回答した人が18.3%



【全体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために何か取り組みたいと思わない理由は、「きちんと対応できる自信がないから」が18.3%、「取り組む時間がないから」が14.2%、「関わる機会がないから」が12.7%となっている。

【性別】「専門の人や関係者に任せたいから」は、男性が13.7%と、女性の6.8%より6.9ポイント高くなっている。また、「きちんと対応できる自信がないから」は、女性が21.3%と、男性の15.4%より5.9ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下では「専門の人や関係者に任せたいから」が、30歳代、40歳代、50歳代では「取り組む時間がないから」が、60歳代、70歳以上では「きちんと対応できる自信がないから」が最も高くなっている。